

すぎのこ

133

公益財団法人 すぎのこ芸術文化振興会

事務局：〒171-0022 東京都豊島区南池袋4-19-6 TEL.03-3984-2396 FAX.03-3984-2264
 飯能研修センター：〒357-0063 埼玉県飯能市飯能325-2 TEL.042-971-4121 FAX.042-971-4155
 滝沢研修センター：〒377-1611 群馬県吾妻郡滝沢村千原 TEL.0279-96-1015 FAX.0279-96-1662

2014 1/1

2面・3面 巡回公演だより／園から
 のお便り／制作だより ほか
 4面 助成・補助事業報告／賛助会
 のご案内 ほか

http://www.suginoko.org/

E-mail: support@suginoko.org

創立50周年を 迎えるにあたって

理事長
小澤 幸雄

甲午 明けましておめでとうございませう！

皆様におかれましては、爽やかな新年を迎えられたことと心からお慶び申し上げます。

すぎのこはお陰さまで、今年8月1日に創立50周年を迎えます。半世紀！それは長いようで短く、短いようで長い年月でした。多くの若者が参加しそして去り、幼稚

園や保育園など多くの観劇施設や先生に励まされ叱咤され、個人や企業や支援団体に支えられ時には裏切られ、顧みれば頭の中は走馬燈のように巡ります。

東京オリンピックが開催された昭和39年。使い捨ては美德也！ゴミの量は文明度のバロメーター！等々、企業の宣伝文句におだてられ踊らされた高度経済成長期の中で、すぎのこも育つてきました。

人々の暮らしは驚異的に便利になる一方、消費生活のツケは地球的規模で人類に襲いかかってきています。オゾン層の問題・温暖化の問題・大気汚染・巨大化する暴風雨大洪水・等々、人類と自然との共生を願うなら、

今こそ調和のとれた発展を真剣に考え、希求していかなければならないと思います。

昨年、サンマリノ共和国のマリノ・カデロ駐日大使と話す機会を得ました。サンマリノは世田谷区ほどの広さで、人口は3万6千人くらい、世界で五番目に小さな国で、最も古い共和国、風光明媚な観光立国という。カデロ大使は駐日大使を35年も続けられている親日家ですが、サンマリノに日本の神社を建立し、3月にオープンするという

ことでした。神道の八百万（ヤオヨロズ）の神の思想は自然と平和に大きく貢献するエコ思想といい、「日本人はもつとプライドを持って世界に発信すべきだ！」とおっしゃっていました。私はかねてより、「自然環境の崩壊は人の心の荒廃を生み、人の心の荒廃は自然環境を破壊する。それらは同一歩調で悪化の一途を辿っている！」との思いから、「思い遣り」もつたい

ない」の言葉を生みだした日本人の心、その心を育んできた日本の民話伝説を、地域の方々と共に伝承していきたいと考え、諸々実践もしてきました。今年、創立50周年の記念事業として、東日本大震災被災地宮城県で、「民話伝承フェスティバル」を開催したく現在準備に取りかかっています。

「みんな」をキーワードに、語り部・読み聞かせ・朗読・人形劇・影絵劇・音楽劇・合唱・舞踊等、枠を越えた人々が集い、日本の心を次代を担う子ども達に披露し伝承していければと考えております。4月号の季刊紙には実施案を掲載することになるでしょう。誰でも参加していただけるような、垣根は低く、意識は高い企画にしたいと考えております。心ある皆様方の参加をお待ちいたします。終わりに、皆様方のご健康とご多幸を祈念して、新年のご挨拶とさせていただきます！

たのきゅうのうわばみだいじ

榎本 均

拝啓、親愛なる子ども達へ新年、あけましておめでとうございます。寒さに負けないで元気で遊んでいますか。

今年、すぎのこは50周年です。あなた達と出会って50年を迎えようとしています。

今年も、これからも、そのひとつ、ひとつの出会いと感動を大事にしていきたいと思っています。

今、世の中は大人の人間に比べて子ども達の数が少なくなり、たくさんさんの難しいことが起こってきて、私達大人は不安で迷っています。

そして、このままでいいのかと、ふっと立ち止まってしまふこともあります。でも、だから



こそ、あなた達に夢と希望の光を投げかけてゆく責任を感じています。

すぎのこ50年の道のりは山あり谷あり、でも、上から見れば真つすぐな一本道でした。

新たな年、あなた達には、一年、ひと月、一日が変化の連続でしょう。

人形であなた達と向き合うと、小さな命の、魂のエネルギーが人形に伝わってきます。あなた達の変わらない笑顔から、私達は勇気をいただいています。

これからも、あなた達の元気で明るいファンタジーの世界を作るお手伝いをさせていただきます。元気で、また人形と笑顔で会いましょう。

ねずみの嫁入り班

後藤 佳世

「三匹のこぶた」と「ねずみの嫁入り」の二本立てで、東北地方を中心にまわりました。

三年連続東北担当だったせいでしょうか、私のことを覚えてくださっていて、よく先生方から「前もいらした？ あの時きはありますか」と言われました。アンケートを書いていただくと、「前よりも上手くなってよかった」とお褒めの言葉もいただきました。とてもやる気が出てきます。

「三匹のこぶた」は子どもとの掛け合いが多い作品です。立ち上がって元氣よくオオカミさんを応援する子もいれば、こぶたを応援する子もいます。先生方も、その光景をとつても楽しそうに見ていらつしやいます。

関東では「とべ！ドードー」という地球環境をテーマに取り上げた3部作のひとつをお届けしています。私達は、自然環境の破壊と人々の心の荒廃は根底でつながっているという考えの

もと、この作品を取り上げました。子ども達に見せるなら「今でしょう！」

わらしべ長者班

西條 沙夜香

2014年、あけましておめでとうございます。

「わらしべ長者」という作品は、ほのぼのとして私はとても好きなお話のひとつです。人間らしさが見える作品だと感じます。

お話の中で人形が寝たりけけたり遊んだりしてるシーンは、子ども達がよく笑ってくれます。私はその笑い声を聞くのがとても好きです。子どもにとつてそれは経験のあることで、日常的なことだから共感してくれているんだと。そうして人形や作品を身近に感じてくれているのかなと思うと、また嬉しくなります。

これからも、しつかり子どもの反応を見ながら、作者の想いをきちんと伝えられるように、ほのぼのの感はそのままに、年度末まで残りの上演を大切にしていきたいと思っています。

個人的な抱負では、一日一プラス思考でいきたいと思っています。今年もよろしく願います。

おだんごばん班

石山 和佳

明けましておめでとうございます。

皆さま、昨年はどんな年でしたでしょうか。私にとつては多くのことを体験した一年でした。6月に入団し、10月からは「おだんごばん」と「かもとりごん

べえ」の二作品で巡回公演に出ました。九州・東北・関東をまわり、その土地ごとの空気を感じてきました。

園によつて子ども達の反応は様々で、劇の準備に興味津々だったり、お行儀よく観てくれたり、明るく笑ってくれたり。いつも新鮮な気持ちで公演に臨めました。

会場に入ってきたときは、どこか緊張した面持ちだった子ども達も、人形劇が終わつてお見送りのときは、笑顔でお別れの挨拶をしてくれました。子ども達との距離が縮まったのを感じ、嬉しい瞬間です。

皆さまに「楽しかった」「もっと観たい」と言ってもらえる、心に残る人形劇ができるよう、稽古を重ねていきたいと思っています。今年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

どろぼうのなみだ班

鳥居 正幸

入団して半年が経ちました。あつという間のような気がします。昨年の5月にすぎのこに入つてから毎日が充実しています。すぐご飯を食べる量が多くなりました。今年もよい一年になればと思います。

昨年の11月から年末にかけて、沖縄県で上演いたしました。やはり沖縄は暖かく、冬だというのに昼間は半袖でも過ごせました。沖縄の子ども達はとても元気がいいので、毎日上演するのを楽しみに園に向かいました。沖縄には面白い生き物がいっぱいいます。すぐく大きいカマ

園からの お便り

たのきゅうのいわばみだ

■いばら保育園（岡山県井原市）

年齢に関係なく、子どもから大人までくぎ付けでした。演じる人、見ている人が一体となり、とても感動いたしました。子ども達、大人達の心をしっかりとつかんで演じられていて、プロの凄さだなあと感じました。誰もが感動した様子で、笑顔でそれがわかるほどでした。本物を観ることができ、嬉しく思いました。ありがとうございます。

■新庄保育所（広島県山県郡北広島町）
導入のお話は、園児達の身近にあるものを使つてのペープサ

ートでしたので、未満児も楽しい雰囲気の中で参加できました。楽しさ、怖さや笑いの中に引き込まれていった園児達。表情がかわいかったです。あつという間に時間がすぎていきました。数日経つてからも「うわばみ」の話が出ていました。

■緑ヶ丘保育所（島根県益田市）

0〜5歳児まで約80名の園児が観劇しました。間近で見ることと迫力を感じました。さらに少人数で演じる芸の細やかさ、音響のタイミングのよさに毎回魅了させられます。本当に小さい子から6歳の子、職員まで演技にくぎ付けでした。

子ども達は鬼や大蛇などが登場するお話は、怖いけれど大好きです。架空の人物は魅力があります。

来年は劇団50周年を迎えるとお聞きしました。今後ますますのご活躍を期待しております。

■江口幼稚園（山口県下松市）

「たのきゅうのうわばみみたい」ということで、観る前は、職員からはへびが出てくるなら子ども達が怖がつて泣いてしまいかもしれないとか、子どもからも「先生、怖いへびが出るんでしょ！いやだー」の声が聞こえてきました。

でも、いざ見せていただくと、「怖いへび」と言いながらも登場の仕方や顔の変化、言い回しなどでユーモラスにも見え、子ども達は「たのきゅうがんばれー」の気持ちで大声援をおくっていました。話に引き込まれ、とてもよかったです。

子ども達は、お話の世界に引き込まれ、夢中になって見ていました。



水俣さくら幼稚園より

どろぼうのなみだ

■いすみ保育園（静岡県沼津市）

2歳から5歳までの園児が見せていただきました。最初のお話は、2歳の子ども達にもよくわかり、後で「たからもの」のお話を皆でしたそうです。

「どろぼうのなみだ」の影絵と音楽には感動でした。和スタイルの音楽の新旧もよかったです。保育士も子ども達も感動したところは、牛を連れていた子が、実はおじょう様だったところが、影絵効果から伝わったところ

です。影絵の色、3D感、音、人形の表情などが印象に残り、心が動かされました。

■光の子幼稚園（沖縄県那覇市）

「どろぼうのなみだ」は、年少組には少し難しいかなと心配しましたが、お話に引き込まれ、熱心に見ていました。時間が経つてからも子ども達の話題になっていた。教師も笑って見ているうちに、クライマックスはもらい泣き。

にゃん吉くんのお話は、にゃん吉くんのあまりのかわいらしさに、子ども達は「もう一回会いたーい！」と言っています。母猫の子猫をさわるしぐさの優



明信寺保育園より

制作 だより

新年あけましておめでとうございます。

昨年はみなさまにとって、どんな一年だったでしょうか。嬉しいこと、悲しいこと、「じえじえじえ」と驚いたこと。悔しい思いをして「倍返しだ!」なんて思ったこと、「いつやるの? 今でしょ!」と自分を奮い立たせたこと。少し疲れた時には優しく「おもてなし」されたいな、と思ったりもしたかもしれません。

一人一人がそれぞれの物語を時には回り道をしながら進め、また今年も新しいお話が始まります。その大切な一頁は、できれば笑顔でめくりたいものですね。

「どの子にもナマの舞台の感動を!」。すぎのこはこのスローガンのもとに毎年全国の子ども達に人形劇を届け、今年いよいよ創立50周年を迎えます。創立以来、のべ750万人を超える方々に人形劇を届けてきました。言葉にしてしまうと簡単ですが、改めてこの数字に触れると、50年という歴史の重みを感じます。

それでもまだまだ、すぎのこの人形劇を観たことのない方は大勢いらっしゃいます。待っている子ども達のため、まだ出会っていない笑顔に出会うために、すぎのこはより一層頑張っ参りますので、今後もご支援、ご協力のほどよろしくお願いいたします。 **制作部 香川洋平**

長野県上田市巡回公演

今年度も長野県上田市主催の巡回公演に行ってきました。

上田市内の公立のすべての幼稚園さん、保育園さんをまわるので、すぎのこのお兄さん・お姉さんは笑顔で汗をかきかき、ドタバタと毎日3会場をまわります。

上田市は、埼玉県飯能市のすぎのこの稽古場から高速道路を使って、2時間ちょっとで行けるととても交通の便のよいところです。天候にも恵まれ、埼玉よりも一足先に深まった紅葉は、ちょうど見頃でとてもきれいでした。

各園の先生方から、気が付いたことやとても楽しかったというご感想まで、いろいろとお話を聞かせていただきました。最後の園さんでは、ご担当の方も一緒に観劇されて、感激……とまではいかなかったようですが、「涙が出そうになった」「小さな子たちも最後までじっと見ていて驚いた」と感想をいただきました。

本当にありがとうございました。俳優陣も制作も、毎年この上田市の公演を楽しみにしています。子どもたちの笑顔に、また会えますように! **制作部 白石高章**

キリを園の子どもに見せてもらいました。オオカマキリと言うそうです。魚や鳥などの生き物は、関東では見ることもない色



をしています。ちなみにヤンバルクイナは飛べない種類の鳥だそうです。すぎのこのお話に出てくる「ドードー鳥」みたいですね。昨年は沖縄で本当にいろいろな体験をして帰りました。通常の上演の他、影絵の講習会も実施してきました。自由な発想の先生ばかりで楽しかったです。でも、人に何かを伝えるのは難しいですね。とてもよい勉強になりました。

最近は芝居にも少しずつ慣れ

てきて、楽しさを徐々に感じ始めています。役の気持ちを感じながら、どうしたらそれを伝えられるか考え、見つけるとさらに役への愛着が深まっていく気がします。芝居がだんだん統一されて、始めの頃よりよい上演に近づいているのでは、と思います。さらによいものにしていきたいです。

まだまだ自分の芝居は研鑽の途上ですが、ひとつずつクリアしていきたいと思います。

古希の終活

下西 勝彦

この写真、皆さんは「だれ? このおじさん」と、お思いでしょう。昭和50年代の劇団関係者は、「えっこれ、一シさん?」そうです、28年ぶりの「帰り新参」です。

私は、昭和37年、テレビ局で小澤鉄造さんと知り合い、情熱に引かれて41年人形劇団チロリンに参加しました。鉄蔵さんが体調を崩

しいこと! 観劇のあと、「うちのお母さんも、〇〇(自分)のこと、世界で一番かわいって言うよー」と言う子ども達のつぶやきを、いくつも聞きました。■わかくさ幼稚園(長野県上田市)とても楽しみにしていました。遊戯室が劇場に変わり、子ども達は何か始まるのか興味津々でした。始めのうちは「怖い…」とも言っていました。劇が始まると音楽に合わせて手をたたいたり、目をきらきらさせて見ていたのが印象的でした。■山王保育園(長崎県長崎市)子ども達がとても集中して見入っていたのが印象的でした。同席された保護者からも、「内容がわかりやすく、クオリティが高かった」「昔話をしてくれ

わらしべ長者

人、なかなかいないのでよかった」など、大変好評でした。■香焼保育所(長崎県長崎市)私達も人形劇に取り組んでいるので、参考になりました。ちょっとしたしぐさがかわいく、よく動きをとらえていて感心しました。乳児から小学生までいましたが、どの年齢の子ども達も楽しんで見ていました。

■山王保育園(長崎県長崎市)

子ども達がとても集中して見入っていたのが印象的でした。

同席された保護者からも、「内容がわかりやすく、クオリティが高かった」「昔話をしてくれ

人、なかなかいないのでよかった」など、大変好評でした。

私達も人形劇に取り組んでいるので、参考になりました。ちょっとしたしぐさがかわいく、よく動きをとらえていて感心しました。乳児から小学生までいましたが、どの年齢の子ども達も楽しんで見ていました。

かもつひびんべえ

■社会福祉法人福島福祉施設協会 瀬上保育所(福島県福島市)

子ども達が喜びそうな繰り返しの言葉がたくさん出てきて、回数が増えるたびに盛り上がり、子ども達がどんどんお話の中に入り込んでいくのを感じました。ギターでの歌や太鼓など、ふだんあまり聞いたり見たりしないもので、子ども達には新鮮に感じられたようで、とてもよかったです。



先市川へ転居しました。8月理事長から「ゲネプロ」に誘われました。で……常勤顧問です。今年、すぎのこ創立50周年「古希の終活」をいそいそと

先市川へ転居しました。8月理事



香焼保育所より

独立行政法人日本芸術文化振興会 芸術文化振興基金助成事業



日本芸術文化振興会 芸術文化振興基金の助成事業 平成25年度「わらしべ長者全国巡回公演」が昨年の活動を終了いたしました。

子どもたちに「夢と希望」を届けたい。そんな想いを胸に創立50周年を目前にした我々は、改めて原点に戻り、昔話を通して培ってきた日本人の心を後世に受け継ぐべく、民話「わらしべ長者」は、より効果的に表現

するため、生の台詞や生の音にもこだわりを持って作品作りをしてまいりました。

今回は「拍子木」の発する生音や、昔懐かしい「紙芝居屋さん」の様式を取り入れ、古来日本各地で親しまれてきた「篠笛」の調べと共に人形劇が進行していくという新しい試みも見られます。

助成事業実施日数、及び回数は次の通りです。

日本芸術文化振興会のご支援に心より御礼申し上げます。	
巡回公演	日数 回数
北海道	45 79
福岡県	16 29
佐賀県	7 23
長崎県	29 53
熊本県	4 5
大分県	15 32
宮崎県	7 12
鹿児島県	7 18
合計	130 251

公益財団法人 JKA補助事業



公益財団法人JKA「平成25年度 青少年の健やかな成長を育む活動」補助事業が完了いたしました。

今年度の事業では、日本人の素晴らしい精神文化を育んできた日本古来の民話や伝説を題材に「影絵DVD」を製作しました。

劇団研究生を募集しています

すぎのこでは、子ども達にナマの舞台の感動を届ける仲間（劇団研究生・人形劇俳優）を募集しています。巡回公演が中心ですので、長期間の出張が可能

社関連等の公共施設に無料贈呈されました。
補助を賜りました公益財団法人JKAのご支援に、心より御礼申し上げます。



影絵紙芝居用舞台

96 (事務局・清水宛)

活動記録 (平成25年10月～12月)

10/8 第五回臨時理事会
12/26 第二期全国巡回公演
終了

賛助会員を募集しています！

賛助会は、すぎのこの理念・目的に賛同する個人や団体の方々に、当財団の活動を側面から支援していただくものです。入会された方には、会員証と共に入会の証としてアンパンマンでおなじみのやなせたかし先生がデザインした、すぎのこ「すくすく」バッジ(写真)をお贈りいたします。

公益財団法人すぎのこ芸術文化振興会 定款施行細則「賛助会規程」

- 賛助会に「賛助会規程」を以下に定める。
- 賛助会に賛助する基本事項に関しては、定款第45条によるものとする。
- 賛助会は、当法人の目的に賛同し、事業や業務を支援する個人・団体賛助会員からなりその内容は次のとおりとする。
- 賛助会費を納める「会費制賛助会員」
 - 個人 年額 3,000円 以上
 - 団体 年額 10,000円 以上
- 知識、技能、労力を提供する「技能制賛助会員」
 - 個人 年間 3日間以上
 - 団体 年間 5日間以上
- 賛助会員になろうとする者は、申し込み用紙に必要事項記入のうえ、会費(技能制提供予定書)を添えて当法人事務局に提出し理事長の承認を受けなければならない。
- 納入された会費は管理運営費並びに賛助会運営費に使用する。
- 賛助会員が退会しようとする場合、所定の退会届に必要事項記入のうえ、当法人事務局に届け出る。
- 会費制賛助会員が二年以上会費を滞納した場合、技能制賛助会員が二年以上知識、技能、労力の提供がなかった場合は、自然退会として扱う。
- 理事長は、賛助会員の当法人への理解や支援、賛助会員同志の意志の疎通や親睦を図るため、会員の中から若干名の世話人を選び、世話人の中から代表世話人を選任し世話人会を設置する事が出来る。
- 世話人会が設置された場合、世話人は代表世話人の下に、前4項の目的を達成するための事業や業務を、理事長の指導のもとに企画し実施する事が出来る。
- 賛助会員は、この法人が刊行する図書及出版物等の優先的配布、その他この法人の行う行事に関して優先的な取り扱いを受ける事が出来る。
- 賛助会員が、会員として相応しくない行為があると認められる時は、世話人会及び理事会の、各々3分の2以上の議決により除名する事が出来る。
- 前項の理由により除名する場合、理事長は、予め本人からの文書または口頭での意思表示を求め、理事会において最終判断をする。
- 納入された会費及び提供された技能はいかなる理由があろうとも返還はしない。
- この賛助会規程を改廃しようとする場合、理事会の議決を経なければならない。

すぎのこは「税額控除対象法人」ですので、個人の方の賛助会費の一部は所得税の「税額控除の対象」として確定申告により納税額から控除されます。

【税額控除について】 税額控除額の算出式

個人が支出した賛助会費(寄付金)について、確定申告時に税額控除制度の適用を選択した場合、以下の算式により算出された額が、所得税額から控除されます。

〔税額控除対象寄付金(※1)－2,000円〕×40%＝控除対象額(※2) ← この額が所得税額から控除されます。〕

※1 税額控除対象寄付金～税額控除対象法人(すぎのこ)への寄附金額(賛助会費)

注：寄付金支出額が、総所得金額等の40%に相当する金額を超える場合には、40%に相当する額が税額控除対象寄付金となります。

※2 控除対象額は、所得税額の25%を限度とします。

確定申告時に、領収書と証明書の写し(領収書に同封)を添付して下さい。

お問い合わせ、ご入会は support@suginoko.org または 03-3984-2396 (事務局)



すくすくレモン (入会3年未満)



すくすくブルーベリー (入会5年以上)



すくすくオレンジ (入会5年未満)

